

野辺地町まち・ひと・しごと創生総合戦略 効果検証結果 一覧表

基本目標名	施策名	具体的な施策	平成29年度 決算額	重要業績評価指標（KPI）			担当課における内部評価				外部有識者からの評価	
				指標	目標値（H32年）	実績値（H29年）	効果検証	理由	今後の方針	理由	事業の評価	主な意見等
①「 郷土の産業・ 労働分野を 創る」	①-1 「みちのく丸」 を拠点とした ペイフロント計 画	のへじ常夜燈朝市の開催（水産業・農業・商業・観光・民間の連携）	1,350千円	朝市の売上高 【野辺地町調べ】	年間900万円	年間約135万円	進捗していない	売上高の減少となっていることや産業団体が一丸となつての開催趣旨から遠ざかってきている現状から。	事業内容の見直し（改善）	効果検証理由によるため。	KPI達成に有効であった（0人） KPI達成に有効であったとは言えない（13人） その他（2人）	●産業団体主体で事業を進めるには限界が感じられる。 ●来場者に対し、いかに商品を購入してもらうか、もう一歩踏み込んだ仕掛けづくりが必要である。 ●総合的な見直しが必要ではないか。集客についても今の現状では当初の計画とかなりかけ離れているように感じる。 ●物販施設単独では、今後も難しい。みちのく丸関連施設の整備が待たれる。 ●ホタテの生だけでなく、他の物とのコラボを再度検討してみたらよいのではないかと。 ●ホタテが品薄ならそれに代わる商品を準備しておく必要がある。 ●原点にかえり、魚介類また新規販売品を考え、どのような販売計画か具体策を考え、実施するとよいと思う。 ●御指摘のとおり、運営主体を含めた大幅な見直しが必要だと思われる。
		物販・交流施設等の整備・促進	4,063千円	物販・交流施設等来場者数 【野辺地町調べ】	年間3万人	38,189人	一定の進捗がある	来場者は目標値を上回ったことから。	更に発展させる	来場者は目標値を上回っているがレジカウントは目標に達していないため。	KPI達成に有効であった（9人） KPI達成に有効であったとは言えない（6人） その他（0人）	●資料館や、飲食施設が必要に思われる。 ●来場者に対し、いかに商品を購入してもらうか、もう一歩踏み込んだ仕掛けづくりが必要である。 ●総合的な見直しが必要ではないか。集客についても今の現状では当初の計画とかなりかけ離れているように感じる。 ●来場者が減らないように新しい企画を継続していく必要がある。
		水産加工品の開発・販売	0千円	開発する加工品の種類 【野辺地町調べ（町漁協との連携）】	5年間で累計3件	0件	進捗していない	事業中止による	その他	漁協合併により青森県内1漁協体制になった後、再度検討する必要がある。	KPI達成に有効であった（1人） KPI達成に有効であったとは言えない（9人） その他（5人）	●将来に可能性がある事業だと思うので、計画は継続して行っほしい。 ●事業中止のため評価できず。再検討には時間をかけるべき。 ●開発の拠点となる加工場が白紙となっているので、一から検討を要する。 ●目標達成のために早急に取り組み始めなければならない。
		国内外へ向けた「みちのく丸」利活用の推進	7,294千円	ロケ地活用件数 【野辺地町調べ】	5年間で累計5件	2件	一定の進捗がある	フォーラムへの当日の参加や「みちのく丸」見学会への参加等から。	更に発展させる	TV局等への積極的な売り込みが必要のほか、みちのく丸の映像や画像の使用についての問い合わせは多いため、町がロケ地として活用される可能性は高まると推測されるため。	KPI達成に有効であった（9人） KPI達成に有効であったとは言えない（6人） その他（0人）	●総合的な見直しが必要ではないか。集客についても今の現状では当初の計画とかなりかけ離れているように感じる。 ●常夜燈公園内でのイベントを増やし、積極的にマスコミに取材依頼をしていく必要がある。 ●見学者へのPR、広告、看板の活用が必要。
		国内外へ向けた「みちのく丸」利活用の推進	5,700千円	寄附件数 【野辺地町調べ】	5年間で累計30件	7件	進捗している	平成28年度は9件、平成29年度は7件であった。件数こそ2件の減であったが、5年間累計30件という目標に向かって着実に件数が増えているため。	事業の継続	本KPIを達成するためには、「みちのく丸」の維持保全は欠かせないため、維持保全を進めながら事業を継続していく。	KPI達成に有効であった（9人） KPI達成に有効であったとは言えない（6人） その他（0人）	●総合的な見直しが必要ではないか。集客についても今の現状では当初の計画とかなりかけ離れているように感じる。 ●具体的なみちのく丸に関する全体計画を、姿として見せる必要がある。 ●時間がかかるけれども将来のためには必要なことです。 ●みちのく丸に帆をかける新たなイベント等を企画し、町外にPRしていく必要がある。
	①-2 農林水産業の 活性化	後継者及び担い手の育成・確保	3,000千円	新規就業者数（農業・水産業） 【野辺地町調べ（農協・漁協と連携）】	5年間で累計11人	7人	一定の進捗がある	実績があがってはいるものの、担い手確保は喫緊の課題であるため、新規就業者の掘り起こしを図り、早期人材確保に努める。	事業の継続	積極的なトップセールス等を通じて、引き続き、広報活動を実施する。目標年度（H32年）までにリタイアする農家が増加すると見込まれるが、荒廃農地防止と、農業振興のために必要と思われる。	KPI達成に有効であった（13人） KPI達成に有効であったとは言えない（1人） その他（1人）	●農業の新規就業者向けのイベントや他の実施モデルの視察等を企画してほしい。 ●もっと手厚く後継者支援した方がよい。企業誘致が無理なら、地場産業を育てた方がよい。 ●継続するべきである。 ●当時の現状を町内外に発信し、相談会を設ける等の取り組みが必要である。
		農地規模拡大交付金の創設	651千円	規模拡大実施件数 【野辺地町調べ】	5年間で累計5件	5件	一定の進捗がある	交付金を交付し、実績があがっているものの、H32年の目標値達成に向け、制度の周知を図っていく必要がある。	事業の継続	目標年度（H32年）までにリタイアする農家が増加すると見込まれるが、荒廃農地防止と、農業振興のために必要と思われる。	KPI達成に有効であった（15人） KPI達成に有効であったとは言えない（0人） その他（0人）	●農業振興のためには重要な施策であり、継続は必要。
		農業経営の法人化の推進	0千円	農業法人件数 【野辺地町調べ】	5年間で累計3件	2件	一定の進捗がある	法人化を推進し、順調に進捗している。	事業の継続	事業は順調に進捗しているが、経営の多角化や後継者確保のため、事業を継続する。	KPI達成に有効であった（14人） KPI達成に有効であったとは言えない（1人） その他（0人）	【意見等なし】
	①-3 味・特産品を生かした新たな雇用創出	野辺地の美味しいを探る	1,500千円	野辺地ならではの料理が常時食べられる飲食店の件数 【野辺地町調べ】	5年間で累計10店舗	0件	あまり進捗していない	新たな取り組みとして、地域資源を活用した料理の開発事業に取り組んではいるがKPI達成に向けた取り組みとは言えない結果となっている。	事業内容の見直し（改善）	根本的に、KPIが達成できるとは思わないため。ただし、郷土料理の伝承事業は継承するべきと判断する。	KPI達成に有効であった（0人） KPI達成に有効であったとは言えない（14人） その他（1人）	●対象が一部に限られるため、継続は難しいのではないかと考える。 ●具体的な取組みが見えない。 ●成功している他地区を真似する等して、参考にしてはどうか。 ●新たな支援事業を作る必要がある。
	①-4 野辺地工業団地への企業誘致推進	野辺地工業団地への企業誘致の活動	608千円	誘致企業数 【野辺地町調べ】	5年間で累計2社	0社	一定の進捗がある	トップセールスを行うことで企業から情報を得ることができているため。	事業の継続	誘致に向けた協議を行っている企業が存在していることや青森県東京事務所なども連携した取り組みができているため。	KPI達成に有効であった（8人） KPI達成に有効であったとは言えない（5人） その他（2人）	●現状で実績0であるため。 ●継続していかなければできないことです。 ●まずは野辺地町を誘致企業にとって魅力的な町にすることを優先するべきだと思う。
	①-5 産業・雇用創出対策の強化	事業者（法人、個人等）への支援	2,214千円	新たな起業件数 【野辺地町調べ（町商工会との連携）】	5年間で累計35件	3件	一定の進捗がある	起業者があったことや起業を検討している者がセミナーを受講したことから。	事業の継続	補助金交付事業を継続するほか、起業したい者への相談事業を実施し起業への道筋を立てる等新たな事業に着手した継続としたい。	KPI達成に有効であった（9人） KPI達成に有効であったとは言えない（5人） その他（1人）	●相談事業とともに、関係機関との連携や事後フォローも検討願います。 ●後継者不足で廃業が増える予想され、新たに創業する人達を増やしていかなければならない。 ●セミナーに参加した企業へのアプローチも忘れてほしい。 ●起業相談に加え、起業提案（事例紹介等）も必要である。 ●その企業が1年後どうなっているか（経営状況、財務諸表等）をKPIにすべきでは。3年後、5年後でもよい。

基本目標名	施策名	具体的な施策	平成29年度 決算額	重要業績評価指標 (KPI)			担当課における内部評価				外部有識者からの評価	
				指標	目標値 (H32年)	実績値 (H29年)	効果検証	理由	今後の方針	理由	事業の評価	主な意見等
②「 郷土の住みやすさを 実現する」 生活環境・生活基盤分野	②-1 周辺市町村 ベッドタウン化 推進計画 「転入推進 対策」	転入者に対する定住促進の強化	0千円	補助金を活用した転入者数【野辺地町調べ】	年間3世帯5年間で累計50人	0人	進捗していない	業務量に対し、十分な人員が配置されておらず、事業実施に至っていないため。	事業内容の見直し(改善)	根拠となる規定及び財政的裏付けが必要であるため。	KPI達成に有効であった(1人) KPI達成に有効であったとは言えない(13人) その他(1人)	●長い期間をかけて取り組まなければならないと考える。 ●不可能な事業は廃止。 ●目標達成のために早急に取り組まなければならない。 ●すぐに結果が出るものではないと考える。
		空き家・空き店舗バンク制度	0千円	バンク制度利用件数【野辺地町調べ】	5年間で累計15件	0人	あまり進捗していない	空き家の物件登録がないため。	事業内容の見直し(改善)	不動産会社が扱っている物件を空き家バンクに登録するなど、対応策を協議し、空き家の登録物件を増やす。	KPI達成に有効であった(1人) KPI達成に有効であったとは言えない(13人) その他(1人)	●起業者がいなければ効果が見られないため、見直しが必要ではないかと思われる。 ●事業の必要性はあると思うので、その実施方法を検討すべきではないかと考える。 ●個人情報の関係があるので、なかなか難しい面があるのではないかと考える。 ●登録物件を増やすための取組みを積極的に行う必要がある。 ●すぐに結果が出るものではないと考える。
		防災に優しい町への強化	0千円	自主防災組織件数【野辺地町調べ】	5年間で累計10団体	7団体	進捗している	平成29年度、3団体が結成し、合計7団体が組織。	更に発展させる	自主防結成した団体に対し、活動費を一部助成することにより、負担を軽減することや資機材整備を支援する。	KPI達成に有効であった(13人) KPI達成に有効であったとは言えない(1人) その他(1人)	●自治会の自主防災組織化は火災予防において、近隣の声掛けにより大きな効果が期待できる。全町の自治会の組織化を目指してほしい。 ●今後も研修会の開催を是非続けてほしいと思っています。 ●引き続き、未結成の団体に積極的に働きかけてほしい。
	②-2 都市と農山漁村交流の推進	体験移住(おためし居住)への支援	4千円	体験者数【野辺地町調べ】	5年間で累計20人	1人	あまり進捗していない	1名利用者がいたが、利用者数が少なく周知不足である。	事業内容の見直し(改善)	補助金の額や周知方法など見直しが必要であると考える。	KPI達成に有効であった(1人) KPI達成に有効であったとは言えない(14人) その他(0人)	●見直しが必要と考える。 ●PR不足、発信不足。 ●お試し移住支援事業補助金の上限見直しと募集案内の更新及びPRが必要である。 ●すぐに結果が出るものではないと考える。
	②-3 町営等の住宅整備 「転出抑制 対策」	子育て支援等住宅整備の推進	0千円	子育て支援等住宅入居者数【野辺地町調べ】	年間5世帯	0件	進捗していない	本件に関しては、まずは基本的な方針を検討していかなければならないため。	その他	基本的な方針を検討の上で、事業を検討していく。	KPI達成に有効であった(1人) KPI達成に有効であったとは言えない(13人) その他(1人)	●評価対象外。若者向けとするか、高齢者向けとするか、目標や計画をまずはっきりさせるべきで、基本的な施策部分をしっかり検討するべき。 ●原点に立ち返り、再度検討してみる必要があるのではないかと考える。 ●目標達成のために早急に取り組まなければならない。 ●すぐに結果が出るものではないと考える。
	②-4 災害避難地の提供	移住の促進を目的とした首都圏向け災害避難地の提供	0千円	体験者数【野辺地町調べ】	H29～31年の3年間で累計100人 ※災害時の場合を想定した指標は設定しない	0人	進捗していない	業務量に対し、十分な人員が配置されておらず、事業実施に至っていないため。	事業内容の見直し(改善)	仕様を早急に定め、予算要求する。	KPI達成に有効であった(1人) KPI達成に有効であったとは言えない(13人) その他(1人)	●事業として大きすぎる施策で、周知方法の見直しが必要。 ●評価対象外。不可能な事業は廃止。もう少し具体化してから評価の対象としたらどうか。 ●目標達成のために早急に取り組まなければならない。
	③「 郷土の人の身体と心を守る」 福祉・保健・医療分野	③-1 結婚支援対策の推進	402千円	「街コン」の出会いによる結婚件数【野辺地町調べ(町商工会との連携)】	年間2件	0	あまり進捗していない	H29の実績件数が「0件」であったため。しかしながら、男女の出会いの場の創出に寄与しており、そういった意味では、結婚支援対策について一定の効果はあると考える。商工会や町側で把握しきれていない結婚実績も存在する可能性がある。	事業内容の見直し(改善)	結婚支援対策は、今後ますます進展すると考えられる少子化対策にとって必要な事業であるため。今後、出会いの場の創出や婚活、結婚支援をより一層推進していきたい。	KPI達成に有効であった(4人) KPI達成に有効であったとは言えない(10人) その他(1人)	●出会いの場づくりとしては必要と考える。 ●過去に実施した街コンで結ばれたと報告に来たカップルもあったので、効果はあったと思われるが、真に対象となる男女が参加できるよう工夫が必要。 ●他地区を参考にしながら独自のものを検討してはどうか。 ●近隣町村と連携し、合同で開催することも検討する必要がある。
		乳幼児医療費の無償化(未就学の所得制限の見直し)	12,582千円	就学前児童のいる世帯【野辺地町調べ】	350世帯	354世帯	進捗している	所得撤廃したことにより、医療費助成件数が増えている。	事業の継続	子育て支援対策からも継続していく。必要性が高く、現物給付化しており効率的でもある。	KPI達成に有効であった(15人) KPI達成に有効であったとは言えない(0人) その他(0人)	●大切な事業なので継続すべきです。 ●未来のある子ども達のために、本当にありがたいです。 ●対象世帯が減らないよう、子育て支援全般の内容充実にも努める必要がある。
		保育所利用料の特例の拡充(同時入所の児童がいる場合の第2子無料化)	48,787千円	入所児童数【野辺地町調べ】	年間370人	341人	一定の進捗がある	平成29年度町内保育所定員325人。定員外入所を含め、平成29年度3月1日現在の入所者数341人。前年度に引き続き、平成29年度においても、入所者数は、4月よりは増加傾向にあり、ある程度の効果が現出しているものと思われる。	事業の継続	子育て家庭の経済的負担の軽減を図り、安心して子どもを産み育てる環境を整えるため、継続する。	KPI達成に有効であった(14人) KPI達成に有効であったとは言えない(1人) その他(0人)	●全児童を無料化にすべく、他町村はもう行っている。無料でないため、他町村に住んだ人がいる話が聞こえてきている。 ●引き続き、待機児童ゼロを目標に取り組んでほしい。
		地域子ども・子育て支援事業の充実	22,026千円	利用者数【野辺地町調べ】	＜放課後児童クラブ＞ 登録児童:年間120人 ＜地域子育て支援拠点＞ 延べ人数:年間2,000人 ＜延長保育＞ 延べ人数:年間7,500人	＜放課後児童クラブ＞ 登録児童:年間108人 ＜地域子育て支援拠点＞ 延べ人数:年間1,022人 ＜延長保育＞ 延べ人数:年間7,608人	一定の進捗がある	放課後→登録児童数の増加により、社会資本整備対策の必要性が現出。 支援拠点→保護者の共働きにより事業の利用者は減少したが、今後も継続して子育て中の親子の交流や育児相談等の場の提供をする。 延長保育→目標値は達成したが、今後の事業拡大について検討・実施する。	事業の継続	保護者の就労形態の多様化等に伴い、今後も保育ニーズの高まりが想定されるため、事業を継続して実施する。	KPI達成に有効であった(15人) KPI達成に有効であったとは言えない(0人) その他(0人)	●支援拠点に関しては、休日の取組みも必要であると考える。

基本目標名	施策名	具体的な施策	平成29年度 決算額	重要業績評価指標 (KPI)			担当課における内部評価				外部有識者からの評価	
				指標	目標値 (H32年)	実績値 (H29年)	効果検証	理由	今後の方針	理由	事業の評価	主な意見等
③ 「郷土の人の身体と心を守る」 「福祉・保健・医療分野」	③-3福祉・医療の充実	地域医療体制の充実促進		小児急病、夜間受け入れ体制等の勉強会の開催（北部上北広域事務組合等との連携） 【野辺地町調べ】	勉強会の開催		評価対象外事業※広域事業のため					
		中核病院、産科、小児科など受診者の通院交通費助成	2,912千円	妊婦健康診査等交通費助成の利用者 【野辺地町調べ】	年間85人 ※通院支援制度の拡充	73人	進捗している		更に発展させる	新たなニーズとして多胎妊娠により追加となった妊婦健診の交通費助成も含め、医療受診に係る精神的・身体的・経済的負担軽減を目指したさらなる事業対象の拡大を要する。	KPI達成に有効であった(14人) KPI達成に有効であったとは言えない(1人) その他(0人)	●人口維持、若者の定住には欠かせない事業である。 ●子育て事業とも関連があるので、継続してほしい。 ●全国的に産婦人科が不足している中の助成は心強く、安心して子どもを出産する助けとなります。 ●妊婦の絶対数を増やすために、子育て支援全般の内容充実に努める必要がある。
		妊婦への支援	11,291千円	件数等 【野辺地町調べ】	＜マタニティサロン＞ 利用者：年間80人 ＜妊婦健康診査公費助成＞ 利用者：年間130人 ＜救急システム＞ 情報提供者：年間100人 ＜妊産婦、新生児訪問＞ 100％継続	＜マタニティサロン＞ 利用者：年間17人 ＜妊婦健康診査公費助成＞ 利用者：年間104人 ＜救急システム＞ 情報提供者：年間66人 ＜妊産婦、新生児訪問＞ 98.7％	一定の進捗がある	マタニティサロンについては、外部機関へ依頼して特別講座を組み入れる等引き続き内容を充実。妊婦の救急時情報提供システムでは母子手帳交付時に周知しているだけでなく、転入妊婦や里帰り妊婦にも周知を徹底し、登録に結びついている。	事業の継続	町内産科医療機関の休止が続くなか、妊娠期～出産～子育て期間中の安心安全を図りながら支援していくため、関係機関連携や妊産婦健康管理における取組（健診、訪問等）を充実させ継続することが求められる。	KPI達成に有効であった(14人) KPI達成に有効であったとは言えない(1人) その他(0人)	●人口維持、若者の定住には欠かせない事業である。 ●マタニティサロン利用者の拡大を図りたい。 ●日本に生まれて良かったと思える子ども達を育ててほしいです。 ●マタニティサロンに関しては、独自の情報を提供する等の工夫が必要である。
		成人保健事業の充実（死亡原因一位のがん対策等）	19,677千円	就労世代の健（検）診受診率 【野辺地町調べ】	年間45％	11～19％	あまり進捗していない	受けやすい健診体制づくりをしてはいるが、受診率は11～19％と伸び悩んでいる。目標値に向けて今後更なる改善が必要になると考える。	更に発展させる	平成30年度より、野辺地町総合健診受診動向調査分析事業を実施し、健診未受診者の動向を調査・分析することで受けやすい健診体制づくりを再構築し、更なる受診率アップを目指す。	KPI達成に有効であった(8人) KPI達成に有効であったとは言えない(5人) その他(2人)	●当該健診未受診者の継続した動向の調査・分析は必須と考えます。 ●様々な取組みを行っているが、受診率のアップには繋がっていない状況にある。有効的な検診の方法について検討いただきたい。 ●大事な事なので、再度、受けやすい環境づくりを検討し、継続してほしい。 ●動向調査の分析から健診体制づくりの再構築に期待しています。
		高校生に対する学力向上の支援	1,349千円	国公立4年制大学への合格者数 【野辺地町教育委員会調べ（県立野辺地高等学校、八戸学院野辺地西高等学校との連携）】	年間 町内にある二つの高校の合計10人	4人	一定の進捗がある	これまでに本事業を利用したことのあるH29年度卒業生5人のうち、3人が国公立大学に進学している。	事業の継続	夏季講習、冬期講習の募集を継続して行い、本事業を利用した卒業生の進学先について効果検証を引き続き行いたい。	KPI達成に有効であった(12人) KPI達成に有効であったとは言えない(3人) その他(0人)	●野辺地町に来て指導してほしいと思います。勉強の仕方を指導して、1週間でも住んで野辺地を知ってほしい。 ●他の支援も増やす必要がある。（参考書購入費用や、大学受験費用の支援等） ●地元高校の存続のためにも、継続を願います。
④ 「郷土をまします愛し育む「人財」を育てる」 「教育・歴史・文化分野」	④-1確かな学力・豊かな心・健やかな体の3つの調和のとれた「野辺地っ子」の育成	異文化交流の推進	4,546千円	事業実施の始まりと終わりに英語力テストを実施 【野辺地町教育委員会調べ】	参加者平均点：最初のテストから最後のテスト10％増	6.30％	一定の進捗がある	レベルにばらつきがあるものの、継続して参加している者は英語でのコミュニケーション能力向上に一定の効果が出ている。	事業の継続	両事業に関して、継続して参加してもらえるよう、参加者のレベルや興味に合わせた内容にしていく必要がある。	KPI達成に有効であった(12人) KPI達成に有効であったとは言えない(3人) その他(0人)	●特に英会話は必要不可欠になってきますので、継続してほしい。 ●継続参加のためのさらなる工夫が必要である。
		家族ふれあい読書デーの継続	32千円	家読実施世帯率（小学校） 【野辺地町教育委員会調べ】	55％	32％	あまり進捗していない	幼児、小学生の保護者を対象にした「子どもの読書に関するアンケート」を実施した結果、家読の実施率が保育園・幼稚園が66％なのに対し、小学校では32％と半分以上減少している。	事業の継続	現在実施している事業を引き続き継続しつつ、小学生にとって最も身近な学校図書館の環境を整えるほか、町立図書館にも足を運んでもらえるよう広報活動を積極的に行い、学校、図書館で本を借りて家でも読書を楽しもうという意欲を向上させる。	KPI達成に有効であった(5人) KPI達成に有効であったとは言えない(9人) その他(1人)	●小・中学校の字離れは、深刻化している。 ●本離れを防ぐためにはどうすれば良いのか、再度みんなで検討する必要があると思われます。 ●小学校の長期休みの課題にするという試みも必要である。
		競技スポーツの強化	1,326千円	対象者 【野辺地町教育委員会調べ】	年間受賞者 全国大会入賞＜個人＞2人 全国大会入賞＜団体＞2団体 東北大会3位以内＜個人＞10人 東北大会3位以内＜団体＞10団体	全国大会入賞＜個人＞9人 全国大会入賞＜団体＞6団体（県選抜含む） 東北大会3位以内＜個人＞1人 東北大会3位以内＜団体＞1団体	一定の進捗がある	小学校、中学校、高等学校ともに支援事業を実施して、全国大会や東北大会への権利を獲得する競技団体及び個人が少しずつ増加傾向にある。また、事業を実施することで、大会に向けての意識や競技力の向上・コンディショニングすることができため、モチベーションやパフォーマンスを上げるには有効な事業と考える。	更に発展させる	今後は、事業をもっと周知しながら、各種競技団体及び学校へ選手の育成と競技力の向上を更にお願いいし、目標値を超える成績を期待しながら継続していきたい。	KPI達成に有効であった(13人) KPI達成に有効であったとは言えない(0人) その他(2人)	●一般を対象とした競技スポーツの強化にも力を入れてほしい。 ●活躍の場を広げさせてほしい。 ●スポーツ少年団の強化策を願います。
	④-2心身ともに健康な人づくりの推進	スポーツを通じた健康づくりの推進	344千円	健康数値が良くなった参加者の割合 【野辺地町教育委員会調べ】	90％	・ウォーターマラソンスタンブラリー 健康数値がよくなった割合→21％ ・水泳教室の利用者数：163人	一定の進捗がある	健康ウォーターマラソンスタンブラリー（健康アンケートの結果をもとに検証する）健康となったと感じている人14人中3人 21％であったが、運動が習慣化したと感じる人が14人中9人 64％おり、健康になったと実感するには至っていないが、運動の習慣化につながっている。 水泳教室の利用者数→幼児の部で、若干の定員われがあったが、前期後期ともに定員に近い参加がある。	事業の継続	健康ウォーターマラソンスタンブラリー → 事業を継続し、健康増進に努める。「健康アンケート」の継続。目的が体力の向上や仲間づくりの目的が多く、健康づくりを意識させた取り組みが必要となる。 水泳教室の利用者数 → 水泳教室の内容の充実。なお、委託している指導者に制限があるため、募集定員及び開催回数の限度がある。子ども健康増進を図りながら、要望等にも適切に答えて開催していく。	KPI達成に有効であった(15人) KPI達成に有効であったとは言えない(0人) その他(0人)	●とても良い取り組みなので、続けてほしいです。 ●前年度に比べ大幅な増加となる工夫がみられ、素晴らしいと思います。 ●水泳人口の増加に繋がるよう、町民の求めるインセンティブ（動機付け）を高める必要がある。
		スポーツを通じた健康づくりの推進	2,464千円	利用者数 【野辺地町調べ】	300人	665人	進捗している	事業拡大の結果、目標値を超えた利用者数となったため。	事業の継続	平成29年度～事業拡大し、利用者も一定の人数がいることから、今後も本事業は継続すべきである。	KPI達成に有効であった(14人) KPI達成に有効であったとは言えない(0人) その他(1人)	●健康寿命を延ばすためにも、町民一人1運動を目指してみては。 ●健康アンケート実施者を増やし、健康意識を高める、委託指導者を増員し、利用者を増やす必要がある。